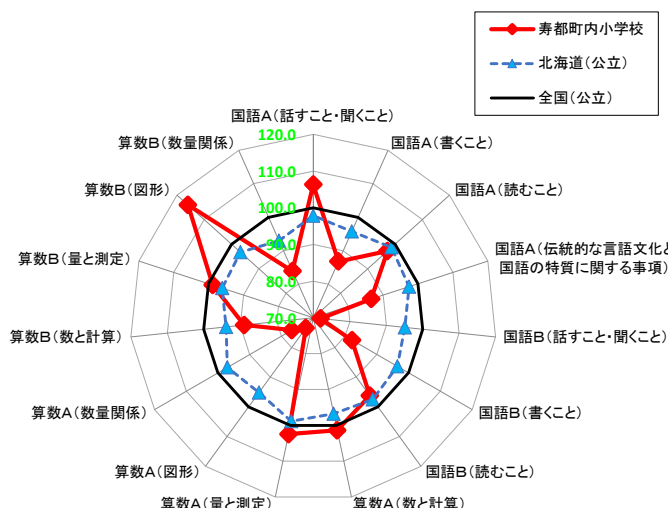


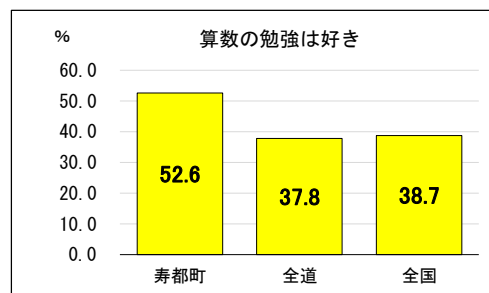
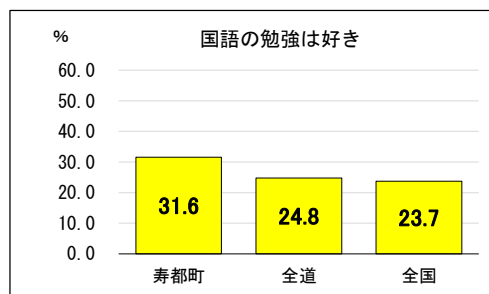
■ 寿都町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:2、児童数:19名)

【教科全体の状況】

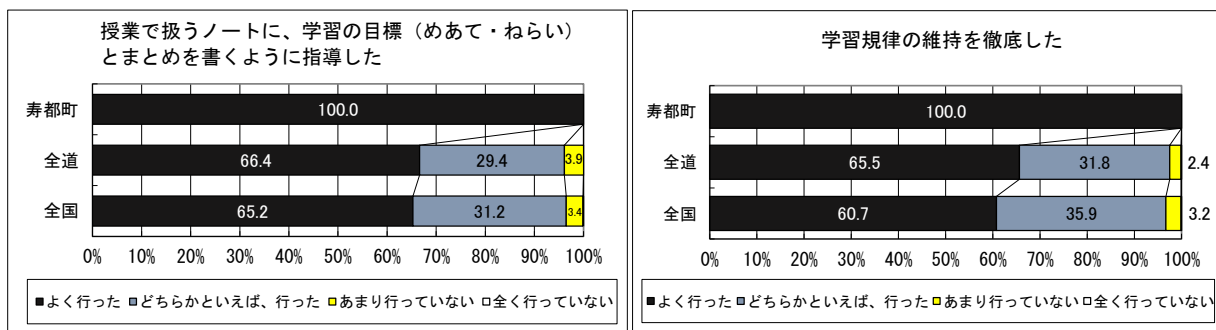
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語Aでは、「話すこと・聞くこと」で、全国を上回っている。 ○ 算数Aでは、「数と計算」「量と測定」で、全国を上回っている。また、算数Bでは、「図形」で、全国を上回っており、「量と測定」で、全道を上回っている。	○ 授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くよう指導した結果、児童は見通しをもって授業の臨むことができるようになり、学習意欲が高まるとともに、基礎的・基本的な内容が定着し、国語Aの「話すこと・聞くこと」、算数Aの「数と計算」「量と測定」の領域で全国及び全道を上回ったと考えられる。
児童質問紙	○ 「国語の勉強は好き」「算数の勉強は好き」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。	
学校質問紙	○ すべての学校が、「授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くようによく指導した」と回答している。 ○ すべての学校が、「学習規律の維持を徹底した」と回答している。	

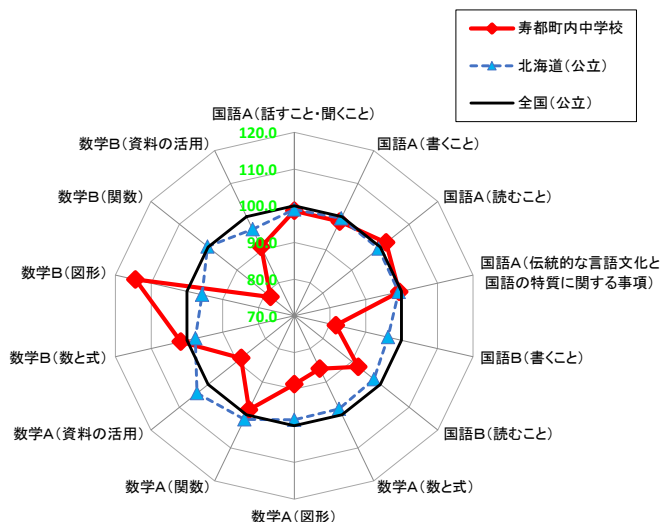
【寿都町の学力向上策】

- ◎ 校内組織である学力向上委員会が中心となった学習環境の整備
- ◎ 学習支援員の配置による、習熟度別少人数指導等の指導方法の工夫
- ◎ 放課後及び長期休業中の学習サポートの実施
- ◎ 情報通信機器の活用及び地域素材の教材化による体験的な学習の充実
- ◎ 家庭学習の手引きや生活リズム調査による家庭学習習慣の定着を図る取組の推進
- ◎ コミュニティ・スクールの取組による、地域全体で子どもたちを育てていく体制の整備
- ◎ 小中高連携推進委員会による、全町的な課題分析と改善に向けた取組の推進
- ◎ 全町での土曜授業の実施、及び地域の人材を有効に活用した学習の充実

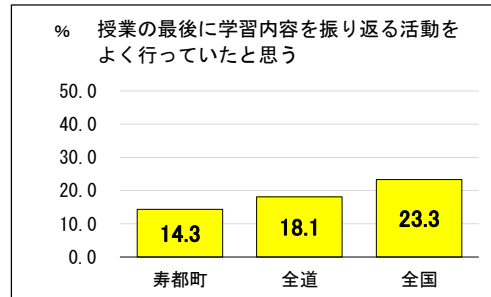
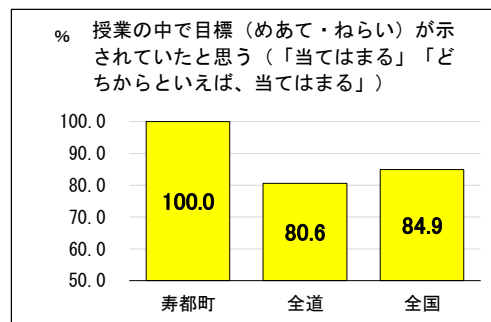
■ 寿都町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:1、生徒数:21名)

【教科全体の状況】

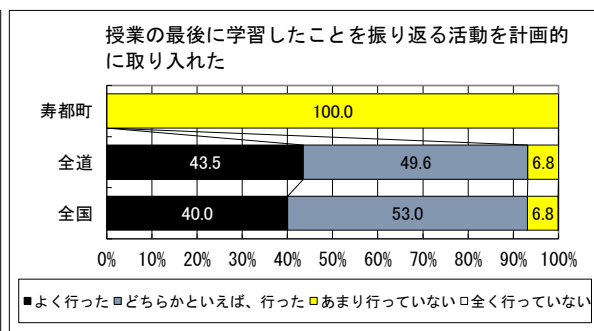
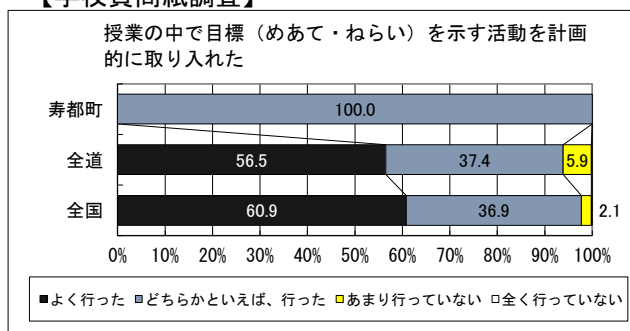
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語Aでは、「読むこと」で、全国を上回っており、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で、全道を上回っている。 ○ 数学Bでは、「数と式」「図形」で、全国を上回っている。	○ 授業の中で目標(めあて・ねらい)を示したり、授業の最後に学習内容を振り返る活動を設定したりすることが、基礎的・基本的な学習内容の定着につながっていることから、今後は、すべての教科等の授業の導入において、学習課題を明確に示したり、終末で身に付いたことを確認したりするなど、一層の指導方法の工夫改善を図る必要があると考える。
生徒質問紙	○ 「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」)」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を下回っている。	
学校質問紙	○ 授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れた。 ○ 授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れた。	

【寿都町の学力向上策】

- ◎ 校内組織である学力向上委員会が中心となった学習環境の整備や、全校で統一した学力向上の取組の推進
- ◎ 指導方法工夫改善加配教員の配置による、習熟度別少人数指導等の指導方法の工夫
- ◎ 放課後及び長期休業中の学習サポートの実施
- ◎ 情報通信機器の活用及び地域素材の教材化による体験的な学習の充実
- ◎ 家庭学習の手引きや生活リズム調査による家庭学習習慣の定着を図る取組の推進
- ◎ コミュニティ・スクールの取組による、地域全体で子どもたちを育てていく体制の整備
- ◎ 小中高連携推進委員会による、全町的な課題分析と改善に向けた取組の推進